



住んでいる市町村に対する愛着は87.6% 青森県に対するマイナスイメージが低下するなど県民の意識は変化

このたび、地域活性化の原動力とも言われる地域への誇り、愛着の実態等を把握するために行った「郷土に関する意識調査」等の結果をとりまとめたことから公表します。この結果を基に県民の皆様・有識者の方々からさらに意見をいただきながら、今後の方向性を検討し、施策へ役立てていきます。



調査結果のポイント

—郷土に関する意識調査等の結果報告書より—

1 地域への誇り

■ 県民は自分が住んでいる市町村に対して高い愛着を持っている

自分の住む「市町村」に対し「愛着がある方だ」又は「どちらかと言えば愛着がある方だ」と答えた人の割合は87.6%(p.27)。

■ 青森県に対するマイナスイメージは低下している

青森県に対するイメージを、「青森県のイメージアップに関するアンケート調査」(平成13年)と比較してみたところマイナスイメージに変化が見られた(p.30)。

- ・ 「貧しい」44.1%→27.8%、「閉鎖的な」29.4%→15.5%、「暗い」40.8%→11.1%

2 県民気質

■ 青森県民は東北トップレベルの人見知りだが、打ち解けると会話は弾む

全国県民意識調査(NHK放送文化研究所)において「初めての人に会うのは、気が重い」と答えた人の割合は、調査が行われた昭和53年、平成8年とも本県は全国1位、今回の調査でも東北トップレベル。一方で「気心の知れた相手との会話ははずむ方だ」と答えた人の割合は、青森(86.8%)、東北(86.6%)、東京(87.5%)ともほぼ横並び(p.31)。

3 地域情報の収集方法

■ 県民の情報源は、テレビ・新聞・広報紙であり、他市町村のことをもっと知りたいというニーズは高い

- ・ 地域の話題や新しい情報を得る媒体(p.49)
 - 「テレビ」78.1%、「新聞」71.1%、「県や市町村の広報紙」41.0%
- ・ 県内他地域の暮らし、文化、歴史などを知ってみたいと思う人の割合(p.51) 76.1%

郷土に関する意識調査

- ・ 調査期間：平成24年7月11日～7月20日
- ・ 調査対象：20代～60代の県民 5,000人
- ・ 抽出方法：市町村住民基本台帳からの無作為抽出
- ・ 調査方法：郵送法